

滅菌物による機種選定

滅菌内容		シリーズ		CLG-DVP	CLG	CLS MCS MCY TR	KTS KY パーソナルクレーブ	使用条件	使用上の注意
		CLG-DVP	CLG						
液体培地	フラスコ等を使用した大量の滅菌	◎	◎	○(1)	△(1)	(1) 滅菌時間を長く設定することで滅菌可能です。 (2) キャップを完全に外し空気を抜くやすくすることで滅菌可能です。 (3) 多量の滅菌の場合、ダーラム管内の空気が抜けないことが稀にあります。その場合は、量を少なくしてください。 (4) 滅菌バッグ、滅菌容器使用上の注意点を遵守すると共に温度を高く、滅菌時間を長く設定することで滅菌効果が高くなります。 (5) ピペット、フィルター、ハウジング、管、バルブ等、形状が複雑で空気が抜けにくい構造の物は、滅菌時間、空気抜き時間を長くする必要があります。 (6) 滅菌物を少なくし十分な隙間を設けて配置し、滅菌時間を長く設定することで滅菌可能です。 (7) CLG-DVP に比べて運転時間が長くなります。	・滅菌終了後の高温時にフタをあけると突沸の危険性が高いので十分に冷めてからフタを開けてください。 ・ビン、試験管等での滅菌時、キャップは完全に外す、キャップをする場合はネジ式のキャップは十分に緩める、綿栓、通気性のあるシリコンスポンジ栓にする等、容器内の空気が抜けるようにしてください。空気が抜けないと、滅菌不良になります。 ・ダーラム管滅菌の場合、脱気の為に突沸させる必要があります。その為に通気孔付きシリコン栓等の通気性のある栓を御使用ください。また、突沸により培地がこぼれ缶内が汚れますので、 底付金網カゴ を推奨します。		
	バイアルビン、試験管等を使用した少量の滅菌	◎	◎	◎	○(2)			・廃棄用滅菌バッグを使用するときは、 底付金網カゴ を推奨します。 滅菌容器 を使用する場合は廃棄用滅菌バッグを使用しないで容器に直接廃棄物を入れてください。金網カゴは廃棄用滅菌バッグから漏れた滅菌物が缶体底部にこぼれてしまう為毎回缶体底部の清掃が必要となります。 ・ディスポ用シャーレ等で廃棄用滅菌バッグを使用する際は、以下の注意が必要です。 (滅菌バッグ使用上の注意点 (PDF ファイル) 別途参照) ①バッグの口を出来るだけあける。(やむなく口を閉める場合は、ストロー状の通気孔を設ける) ②気化による空気排出用の水をバッグに 200ml 程度入れる	
	ダーラム管を使用する滅菌	◎	◎	○(3)	×				・容器等を滅菌するときは、受け口を下向きにセットにすると中の空気が抜けやすくなり、滅菌効果が良くなります。但し、容器を重ね置きにすると重なった部位に蒸気が浸透せず滅菌不良となる可能性があります。 ・布類を重ねて入れると、蒸気が浸透せず滅菌できない可能性があります。 ・布類を濡れた状態（水分を多量に含んだ状態）で滅菌すると、熱が奪われ蒸気が浸透せず滅菌不良となります。必ず乾いた状態で缶内に収容してください。 ・必ず金網カゴを使用してください。(熱源により焼損の恐れあり)
滅菌バックの使用	◎	◎	○(4)	△(4)					
滅菌容器の使用	◎	◎	○(4)	○(4)					
廃棄物	滅菌容器+滅菌バッグの使用	◎	○(7)	△(4)	×				
	裸のまま包装せずに滅菌	◎	◎	○(5)	○(5)				
	包装(滅菌バッグ)した状態で滅菌	◎	○(7)	△(5)	×				
器具類	容器	◎	◎	◎	◎				
	作業着やガーゼ等の滅菌	◎	○	○(6)	△(6)				

上記の滅菌以外にご使用の場合、またご不明な点がございましたら、弊社まで御相談ください。

滅菌条件は、滅菌物の種類、量、入れ方で大きく変化します。品温センサーや滅菌指標体（滅菌テープ、滅菌カード等）などを利用して適切な滅菌条件を設定してください。

滅菌物は、缶体容量の60%以下を目安にしてください。詰め込みすぎると滅菌不良を起こす原因となります。

- ◎ 問題なく使用できます。
- 問題なく使用できますが、使用上の注意が必要です。
- △ 使用条件について、使用上の注意を遵守することで滅菌が可能です。
- × 滅菌が不十分となる可能性があります。

その他	価格	高価	>	>	安価	シリーズ以外にも、容量、型式、 オプション (PDF ファイル) 有無により変わりますので、目安としてください。
	バリデーション(GMP)対応 (PDF ファイル)	可	可	可	不可	可の場合も、 品温センサーや記録計 (PDF ファイル) をつけることで可能となります。標準品では対応できません。
	運転サイクル時間	長	>	>	短	被滅菌物の種類や量等によって運転時間は大きく変わります。弊社まで御相談ください。